

令和2年度 バウム 事業報告書

1 総括

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年であった。感染対策を実施し、事業所から感染者は出なかったが、旅行などの行事の中止や受注作業の減少など活動には大きな影響があった。事業所の利用自粛については年度前半に若干の利用率低下が見られたが、夏以降回復し、全般的には大きな減収には至らなかった。

また、令和2年度はバウムにとって大きな転換期となる年度であった。平成23年度の開設以来、就労移行支援事業所へのステップアップ支援という経過施設としての役割を基本方針としてきたが、29年度からは、利用者像の変化に対応するため福祉就労の充実もそれに加えグループ別の活動を実施してきた。令和2年度になると、利用者像の変化が一層顕著となり、下半期からは福祉就労の充実を中心に据えた基本方針への転換を行った。バウムの利用者の多くのニーズは、福祉就労を通じて自己肯定、また社会人として成長しながら、各々に合った社会参加や社会貢献を果すことであり、そのための支援が必要であると感じた一年であった。この支援をしっかりと行うことが、結果的に一般就労に必要な基本的な力の育成になると考える。

2 事業概要

1) 施設名	バウム
2) 事業種別	就労継続支援B型
3) 所在地	東京都小平市学園西町三丁目24番18号
4) 経営主体	社会福祉法人 未来
5) 利用定員	20名
6) 利用現員	24名（令和3年3月31日現在）
7) 法人認可年月日	平成14年12月11日
8) 事業開始年月日	平成23年 4月 1日
9) 職員	管理者 1名
	サービス管理責任者 1名
	生活支援員 3名（常勤換算 1.6）
	職業指導員 2名（常勤換算 2.0）
	目標工賃達成指導員 1名（常勤換算 1.0）

3 基本理念

- 1) 一人ひとりの自己実現の支援
- 2) 互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
- 3) 安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 福祉就労の充実を図り、作業を通して、生活能力、就業能力、社会性の向上等基本的事項の支援を行う。
- 2) 一般就労に必要な生活リズムの構築、生活能力、社会性、就業能力の向上等基本的事項の支援を行う。

5 利用者の受け入れ基準

- 1) 作業や訓練等に対して意欲的である。
- 2) 自力での通所ができる。(公共交通機関の利用が可能である。)
- 3) 反社会的、非社会的行動がない。
- 4) 衛生管理ができる。
- 5) 身辺自立している。

6 実施事業 (活動内容)

1) 作業

- (1) ダイレクトメール作業
- (2) 清掃作業 (公園清掃、アパート清掃)
- (3) その他受注作業

2) 行事

外出 (スポーツ・食事会) ※12月に実施

3) その他の活動

毎朝、事業所周辺の清掃 (地域との関係作りや社会奉仕の意識の向上を図った。)

7 日 課

8 : 4 5	体操・朝礼
9 : 0 0	作業
10 : 0 0	休憩
10 : 0 5	作業
11 : 0 0	休憩
11 : 0 5	作業
12 : 0 0	昼食・休憩
13 : 0 0	作業
14 : 0 0	休憩
14 : 0 5	作業
15 : 0 0	休憩
15 : 0 5	作業
16 : 0 0	休憩
16 : 0 5	作業・清掃
16 : 5 5	片づけ・終礼
17 : 0 0	退勤

※ 毎週水曜日は16 : 00で終了 (事業所別職員会議の為)

※ 毎月第2火曜日は12 : 00で終了 (合同職員会議の為)

8 重点課題・目標

1) 活動

- (1) 利用者一人ひとりあった福祉就労を通じての社会参加の促進

① 通所の安定化

面談等により、精神の安定を図り、安定した通所により生活リズムの構築を支援する。

【成果と課題】

日常の活動の中で、必要に応じて面談を行い、精神的に不安的になった際は話を聴く、助言を行うなどの対応を行った。全般的に通所は安定しており、80%の通所率となった。長期休み

の利用者が1名いたが、定期的に連絡を行い、健康面や生活状況の確認を行った。

- ② やりがいを感じる作業の実施
作業等を通じて自己肯定感を得られるように支援する。
(達成感、仲間意識や帰属意識の醸成、居場所としての役割、責任感の醸成など)

【成果と課題】

9月に職員体制の大幅な変更があり、作業への意欲や集団ルールの順守が全体的に低下することがあったが、3か月が経過する頃から徐々に落ち着きを取り戻すことができた。働くことや周囲と協力することの大切さなどを朝礼や日常の会話の中で繰り返し伝えることで、集団としてのまとまりが出来つつある。

- ③ 工賃
作業の安定供給、新規作業の開拓等により目標工賃を以下のように設定する。

	令和元年度 実績	令和2年度 目標	令和2年度 実績
時給	201円	180円	190円
日給	1,168円	1,050円	1,107円
月給	21,330円	20,000円	20,290円
最高月給	30,960円	28,000円	31,920円

- (2) 就労移行支援へのステップアップの支援
本人の希望や日常の評価から、ステップアップ対象者を選抜し、就労移行支援事業所での実習を行う。

【成果と課題】

12月に1名、1月に1名の計2名が就労移行支援事業所で体験実習を行った。実習先からは2名とも高評価を得たが、1名は不安があるとのことで、もう少しバウムでの活動を継続することとなった。1名は令和3年4月に就労移行支援事業所へステップアップを行った。

- 2) 人材育成
(1) 職員の連携強化(情報共有・相互補完など)
(2) 新規入職職員の育成

【成果と課題】

前述のように施設長を含めて職員体制が大きく変わったことから、職員間のチームワーク形成を最優先に取り組み、10月以降連携協同体制はよく取れていた。年度内の新規入職者は異動による2名も含めると8名中6名であったが、短期間で業務内容を把握し、順調に育成が進んだ。

- 3) 経営管理
(1) 訓練等給付費の安定確保
① 1日平均利用者21人(30人在籍、利用率70%)を目標とする令和2年2月末現在1日平均利用者数20.3人)。
② 利用者確保のため、他事業所、就労支援センター及び特別支援学校などからの実習を積極的に受け入れ、利用につながるよう働きかけを行う。
③ 就労移行の期限超過の利用者の受け入れを推進し、就労へも再チャレンジを支援すると共に、利用者の確保を図る。

【成果と課題】

- ① 1日平均利用者数は19.4名（25名在籍、出勤率80%）となり計画を下回った。出勤率は昨年度とほぼ同水準だが、利用者の在籍人数の減少が影響している。5月、6月は新型コロナウイルス感染症流行の影響によりやや利用率が下がったが、夏以降は回復傾向となった。
- ② <令2元年度実績>
- | | |
|--------|--------------|
| 見学者 | 5名（支援機関紹介5名） |
| 内実習者 | 4名 |
| 内利用契約者 | 2名 |
- ③ 就労移行支援事業の期限超過社からの利用相談はなかった。

(2) コスト削減
節電節水に取り組み他、無駄な支出を抑え、コスト削減を図る。

【成果と課題】

節電、節水の他、在庫管理により無駄な支出の防止を行った。水道光熱費は前年度比で減少した。

(3) 計画的な予算執行
月次試算分析を丁寧に行い経営状態の把握に努める。

【成果と課題】

月次試算の分析により、計画的に予算の執行ができた。

(4) 経営的視点の共有
毎月の職員会議で月次試算報告を行うことで、事業所の財務状況について職員の理解を深め、経営的視点の共有を図る。

【成果と課題】

計画通り報告を行い、大まかな経営状態は全体的に把握できていた。計算書類の構造や収支の予測の把握には学習会による知識の習得が必要であり、次年度以降に実施の予定である。

9 事故等報告

令和3年3月 運転業務時に横断歩行者等妨害等の交通反則行為による告知。

10 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
(2) 開所時間 午前8時45分～午後5時
(3) 年間延開所日数 243日間
(4) 平均活動時間 7時間

11 利用状況

- 1) 利用者延人数 4,708人（前年度4,884人）
2) 1日平均利用人数 19.4人（前年度20.1人）

3) 施設外就労等実人数	10人
4) 施設外就労等延人数	135人
5) 体験実習受入実人数	4人 (前年度5人)
6) 体験実習受入延人数	15人 (前年度41人)
7) 1日平均実習受入人数	0.06人 (前年度0.16人)

1.2 利用者状況 (令和3年3月31日現在)

1) 年齢

20歳未満	1名
20歳以上30歳未満	11名
30歳以上40歳未満	8名
40歳以上50歳未満	4名

2) 障害の状況

手帳不所持	1名
愛の手帳3度	5名
愛の手帳4度	10名 (内身障手帳所持 1名)
身体障害者手帳3級	3名
身体障害者手帳5級	1名 (内愛の手帳所持 1名)
精神保健手帳2級	4名
精神保健手帳3級	1名

1.3 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.4 防災

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練についてはコロナウィルス感染拡大防止のため中止とした。